

# 伊予三島ロータリークラブ



伊予三島RC30周年記念時計塔  
伊予三島運動公園「産土の塔」

## 世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

*Kawii*

2015～2016年度国際ロータリー会長

No. 4

平成 27.7.24  
第 2944 回

## 卓 話 (内部)



### 大 西 克 弘

私が伊予三島ロータリークラブに入会させていただいて半年が経ちました。入会のお誘いをいただいた時からの悩みの種でもあった内部卓話がいよいよ私にも回ってきてしまいました。今日は自分のこれまでを振り返りつつ自己紹介でもしながら話をさせていただこうかと思っております。

生まれは昭和43年2月で現在47歳です。中之庄小学校、西中、三島高校と進学し、中央大学理工学部土木工学科に入学することができました。

大学時代は東京での一人暮らしで、バイトに遊びに一生懸命でしたが、専門課程での宿題も多くまあまあ勉強もしたと思います。また、学生時代から20代半ばまではバイクが好きでよくツーリングに出かけました。北海道一周のツーリングは学生時代にしかできない良い思い出となっています。

22歳で大学を卒業し、株式会社間組に入社しました。間組というのは、現在では合併し名前も変わり中堅程度のゼネコンとなってしまいましたが、入社当時は日本で10本の指に入る規模の建設会社でした。就活当時の1989年はバブル真っ只中の売り手市場で、就職活動も2日ぐらいで終わり、

後の就職氷河期と呼ばれた時期を考えると非常にラッキーでした。

入社後半年ほどの研修期間を終え最初に配属されたのは、千葉県房総半島の富津市というところにある現場で、東京電力の火力発電所間で天然ガスを供給するパイプラインを造るというものでした。忙しい現場で、最初の半年ぐらいはほぼ毎日朝7時から夜12時過ぎまで仕事をしているような状態でした。

ここで初めての飯場暮らしを経験するのですが、当時の大手ゼネコンの現場宿舎は、プレハブではありますが、職員は個室、作業員はせいぜい4人部屋というのが一般的な待遇になってきていた時期だったのですが、私が入った部屋は作業員用の大部屋でパイプベットの2段ベットが4台ぐらい置いてあるような部屋でした。

千葉市内に独身寮もあったのですが、こちらは築40年ぐらいのボロボロの建物でしたが部屋は個室でしたのでまだ居心地はよかったです。当時のゼネコンはバブル経済により業績もよく、全国で独身寮が建て替えられていきワンルームマンションのような造りに変化していった時期でした。入社2年目の後半には新築の寮に引越してきたので、週末は快適な生活ができるようになりました。

入社当時1990年の大卒の初任給は18万だったと記憶しています。入社2年目、春闘で妥結した給与は私の年齢で給料のベースアップ数千円と夏のボーナスは60万ぐらい、冬は80万ぐらいの金額提示だったと思います。そんなにももらえるのかと思ってよろこんでいたのですが、バブル崩壊による影響で冬のボーナスはカットとなり、それでも40万ぐらいはもらえましたが、その後退社するまでの15年間ボーナスの金額はほとんど上がることはありませんでした。

1992年11月 24歳の時に四国支店に転勤となりました。

四国での最初の仕事は徳島県の阿南市で、300mぐらいの道路を作る工事でしたが小さい工事なので現場監督は私1人で、あとは地元の下請さんという体制でした。四国支店に転勤してきたばかりで身近に相談する相手もおらず、また、今のようにインターネットで手軽に調べ物ができるような時代でもなかったもので、色々と苦勞もしたし勉強もさせてもらいました。

次の勤務先は松山市内での下水道工事で、シールド工法という工法で下水道用のトンネルを掘るもので1993年6月から2年ぐらいの工事でした。市街地でもあり夜間工事も多く、近隣からの苦情にも悩まされましたがなんとか無事工事を完了できました。

松山に転勤となった直後、ゼネコン汚職事件が起こりました。ゼネコン汚職とは、1993年～1994年に掛け、元自民党副総裁 金丸信の脱税事件を発端にゼネコン各社から金丸氏への10億円を超える闇献金が発覚し、それを発端として茨城県や宮城県の知事や市長などへの贈収賄事件が次々に明るみとなり、贈賄側のゼネコントップ、収賄側の県知事や市長など計32名の逮捕者が出たと言う事件で、間組では当時の会長・社長・専務が逮捕されるという事態となり、全国で公共工事の入札参加資格停止、受注物件の辞退が相次ぎ、バブル崩壊で低下した体力をさらに奪われる結果となりました。

次の勤務先は、愛媛県上浮穴郡柳谷村（現在の久万高原町）での山岳トンネル工事でNATM工法と言われる工法での道路トンネルの工事でした。1995年4月から1998年3月まで3年間の工事です。ここでの工事は発破工法といわれるもので、ダイナマイトで岩盤を切り崩しながらトンネルを掘っていくもので、私にとって非常に興味深くもあり、自分の感性にあった工事でもありました。また、地図に残る仕事がしたいと常々思っていたので、ようやく念願かなったりと言ったところでした。ところが、工事を途中にして転勤することになってしまい、ここでの勤務は1年半ぐらいのものとなりました。

ここで少しトンネルの話。

シールド工法とNATM工法の2種類を話題に挙げました。さらに細かい区分もありますがトンネル工事は大別するとこの2つとなります。

シールド工法とは、主に都市部で使われる工法で下水道工事や地下鉄工事で採用されることが多いものです。大きな特徴はシールドマシンと呼ばれる円筒状の機械の先端に取り付けたカッターを回転させて土の中を掘り進んでいき、筒の後部でセグメントとよばれる鋼製やコンクリート製の部品を円形状に組立てながらトンネルを作っていくもので、シールドマシンが隔壁となっており、トンネルを掘っている期間でも直接土を見ることがありません。

NATM工法とは、主に山岳部でのトンネル工事に採用される工法で、発破や重機により岩盤を掘削し崩落しないように補強しながら掘り進めていくもので、シールド工法と違って岩盤が露出し

た状態となります。突発的な湧水や、小崩落が起きることもありシールド工法よりも危険性はありますが、個人的には自然を相手に工事をしているという感覚を実感できるものでした。

道路のトンネルは完成すれば目にも見えるし、地図にも載ります。工事が終わればできたと実感できます。しかしシールド工法では地下鉄工事や特殊なものを除き、下水道工事の場合は、工事が完成するとどんな大掛かりな工事をしていても地上に残るのはマンホールの蓋が数個というなんとも寂しいものです。

個人的にはNATM工法の方が性格に合っておりやりがいを感じるもので、シールド工事ははっきり言うと嫌いな工事でしたが、松山での下水道工事がシールド工法の中でも少し特殊なもので、当時の四国支店では経験者のいない工事です。全社的にも少ないものでした。

大型の公共工事では入札参加の条件として、同種工事を経験した技術者を配置しなければならないという条件があり、経験技術者として高松市での下水道工事に転勤することになりました。シールド工法での下水道工事です。

高松での工事が終わり、1998年4月から2000年3月にかけては高知県安芸市で土佐黒潮鉄道のトンネル工事に携わりました。このトンネルは発破NATMによるものでしたが単線鉄道用のトンネルで道路のトンネルに比べるとだいぶ狭いので通常の重機やダンプなどが使えず、トロッコと専用の重機を使っただけの工事です。珍しい経験ができました。

次は再びシールド工法による工事です。高知市での下水道工事を行いました。

その後、今治にある新来島ドックの工場での維持管理工事で土木技術者が必要とのことで応援に行きますが、次の工事が無いので結局1年以上工場の修繕をすることになりました。ちょうど、2001年からの小泉内閣による公共工事削減の影響もあり、仕事量が激減してきた時期でいよいよストラによる人員削減が話題に上るようになっていました。バブル崩壊後からの雇用縮小による自然減で入社当時6000人以上いた社員は4000人程度になっていましたが、さらなる早期退職者の募集や退職勧告が行われるようになってきていました。

その後は、宇和島でNATM工法による道路トンネル工事、徳島市でのシールド工法による水路トンネル工事にたずさわって、2005年3月をもって退社しましたが、間組に在籍した15年間で20回近く転勤を繰り返しながらあちこちで仕事をしました。好きな仕事もあり、嫌いな仕事もあり、楽な仕事もあればきつい仕事もありましたが、今となってはいい経験だったと思っています。

そんなサラリーマン時代を過ごし、三島に戻って2005年4月から大西建設で働くようになり10年がたち、昨年の9月には代表取締役役に就任しましたが、これまで現場の技術者としてやってきたので経営者としてはまだまだ駆け出しのヒヨッコです。みなさんのご指導を仰ぎながら成長していきたいと思っておりますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

## 第2944回 例会 記録 平成27年7月24日

開会 中野 哲 会長

出席報告

出席会員（35名中） 32名  
出席率 91.43%  
第2942回修正出席率 88.57%

会長の時間

幹事報告

・ガバナー事務所～お盆休みのお知らせ  
8月10日(月)～14日(金)まで

・例会変更通知  
(観音寺東)

①日時 7月28日(火) 休会  
②日時 8月4日(火) 夜間例会  
場所 観音寺グランドホテル

例会行事

卓話 (内部) 大西克弘 会員

ニコニコ紹介

外山英敏君～以前、皆様にお世話になったベトナムからの愛大医学部留学生のド・カク・ニャン氏から、FACEBOOKで近況の連絡がありました。現在東京都の国分寺市で、地域医療と二次救急、消化管内視鏡検査の仕事をしているようです。

8月7日プログラム予定

広報委員会